

「川口北高校 女子テニス部」 ボランティア報告

埼玉県立川口北高校 女子テニス部顧問 阿部 守 20161024

平成28年10月22(土)～23(日)、女子テニス部として「関東車いす大会 チャレンジカップ in 有明」に参加し、ボールパーソン等のボランティアをしてきました。昨年はテスト期間と重なったため不参加であり、2年ぶりの参加となります。会場は東京都江東区の「有明テニスの森」で、日本テニス界の聖地とも言われる、テニスコート50面ほどの広大な施設です。2020東京オリンピック・パラリンピックの会場でもあります。



集合写真：最前列+車いす選手直後のピンク軍団が川北生徒

「チャレンジカップ有明」は、世界ランキング1位の国枝選手がそうであるように、パラリンピック日本代表選手等として世界へ羽ばたいていく位置づけともなっている、伝統ある大会です。本校の他にも様々な立場で大会運営に参加し、この大きなイベントを成功させるために協力します。ボールパーソン（球拾い）の講習を受け、選手が気持ち良くプレイできるように動き方を最初に学びます。



「車いすテニス」は、世界的ルールが規定されています。「2バウンドまでOKで返球する」という約束だけが、一般のテニスルールと大きく違う点です。だから、同じコート上で健常者と普通に試合もできることが、「車いすテニス」の大きな特徴と言えるでしょう。



試合は、障害の程度やテニス経験・実績などで、様々なクラス（カテゴリー）に分かれています。必ずしも男子が女子に勝つわけではない点も、面白いところです。また、選手は明るい笑顔でプレイを楽しみ、勝ち負けは二の次で交流しているといった感があります。レベルの高い試合になると、本校選手ができないであろうプレイがどんどん飛び出します。特にダブルスの陣形や、打ってからのコートカバリングなどは、大いに参考になります。

義足や義手などの選手も「車いす」ではなく、「立位」というクラスで奮闘していました。また、車いすの子供達などを対象にイベントやレッスンも催されました。



昼食としてお弁当が支給されました。生徒にとって一番楽しい時間です。60分仕事をして、30分休憩というシフトだったので、ゆっくりとは味わえませんでした。

たくさんの企業等も協賛として協力しており、生徒は「虎屋」の羊羹を持ってVサイン。虎屋さんには、川北卒業生が勤務している（40歳代）、という話でも、大会本部で盛り上がりました。

生徒にとって嬉しいことがたくさんありました。

- ① すぐ隣で「全日本テニス選手権」という国内最高峰の大会が開催されており、休憩時間にたくさん試合観戦できました。
- ② 全ての試合が終わった後、コートがたくさん貸していただき、1時間半ほど自分達の練習ができました。聖地でプレイできて素晴らしい経験となりました。
- ③ 最高のサプライズもありました。この大会の会長でもある、伊達公子選手。例年のご自身のトーナメント出場のためなかなか参加できない状況だったことでしょうか。しかし、今年はケガの療養・リハビリのためツアー不参加の時期とのことらしく、会場への訪問が実現して会場全体が興奮状態に。本校生徒も、サインや握手、写真撮影等、世界のトップ選手と触れ合うことができ、最上のご褒美をいただきました。



もちろん、車いす選手から言われる「ありがとう。」の言葉で、たくさんのパワー（元気）をもらったのが一番です。





伊達公子選手との部員集合写真。みんな、とびっきりの笑顔です。

※「2016 チャレンジカップ有明にて」との注記を入れることで、伊達選手の写真は掲載許可を得ています。

初日は16面を使用してのシングルの試合で、第2日はダブルスの試合を8面で実施しました。

車いす選手の家族や引率者、指導者等の試合も「一般の部」として実施されます。今年度は、ボランティア参加団体からも、1ペア招待されることとなり、本校生徒を代表して1組参加しました。山口優衣（2年・越谷栄進中出身）と瀧上奈優（1年・川口青木中出身）のダブルスです。「一般女子ダブルスの部」で、見事に優勝することができ、素敵な金メダルに加え、たくさんの副賞をいただきました。

大会の感想を書いて欲しいとの大会本部の要請に応え、生徒全員が300～500字程度で書いているところです。一部分、「大会報告書」やHP等に掲載していただけることでしょう。



川口北高校女子テニス部には、大きな目標があります。技術を高め、関東・全国に出場して勝ち進めるように努力することです。また、「テニスを通じて『社会』と関わる」ことも大きな目標に掲げています。今年9月に「テニスの日 小学生大会」の運営・審判ボランティアに参加しました。11月には「小学生初級者テニス大会」のボランティアにも参加する予定です（いずれも埼玉県テニス協会主催のテニス行事です）。イベントがどのような準備・裏方さん等によって成り立っているのかを知るよい機会でもあります。また、社会人と一緒に活動することで、大人としてのコミュニケーション能力も磨かれるのでは、と期待しています。

テニスを通じて様々な体験を得て、ますますテニス大好きな人間になってくれる。テニスでの経験を契機に、社会人としても成長し始められる。テニスを通じて誰かに何かを伝えたり、共有したりできる人物となってくれるものと期待し、これからも生徒には様々なイベントに参加してもらいたいと考えております。



準優勝のペアと 記念撮影

輝く優勝の金メダル→



保護者の皆様からの引き続いてのご理解ご協力を、お願い申し上げます。

今大会出場者が「2020年」にも活躍されることを祈念申し上げます。

女子テニス部顧問 阿部 守